

資 料

委員のダム湖及びその周辺の整備や利活用に関する提案

◇提案

○オオムラサキの里

ダム湖周の標高448mから437mを中心に、エノキ、コナラ、クヌギ、スモモ、桜、紅葉等を植え、オオムラサキを繁殖させる。オオムラサキと共に春の桜、秋の紅葉も楽しめる場所とする。

○緑の回廊

ダム湖から裏谷までの県道瀬戸設楽線の沿道両側10m程を標高450mから1000mまで、近くの雑木林に合わせた植生の木を植え、最終の裏谷ではきららの森の植生をする。途中では、エノキ、コナラも所々に入れ、オオムラサキの繁殖も図る。

◇提案

1. 基本的な考え

ダムについては、多事評論されていますが、ダム湖があれば当然それは生かされ、ダム本来の機能を発揮しなくてはならないと思います。

これからの街づくりには、高齢者、女性、子どもたちでも自由に参加できる場所が必要です。誰もが参加でき、取り組めるダム湖周辺整備ができれば、森と水の町、設楽町と言われるようになると思います。

2. 方法

(1) ダム湖周辺の森づくり、現在の人工林と自然林を生かす。

人工林は森林整備を進め、混交林に換えていく、ただし、植林をする場合はこの地域に適した地元産の種類を用いる。用材として良質の奥三河材を算出できるし、土砂の流出も少なくなる。

自然林は、少し手を加えることにより、景観も良くなり観光資源となる。また土砂の流出も少なくなるし水もちがよく、降った雨がすぐに流れてしまうのを防ぐ緑のダムとなっていく。

地元森林組合や林業家の働き場所ができる。また、森林ボランティアが活動する場所もできる。始めは整備費用がかかるが、整備後はほとんど費用がかからなくなる。

(2) 水没地域の希少な動植物をダム湖周辺に移す。

町内に存在する多くの希少種を将来の子どもたちに是非見てもらい、残してゆきたい。移動できるものについては、できる限り移動できる工夫をしたい。

この作業は、上流下流の多くの人に参加できるので、上下流域の交流の場として生かされる。地域リーダーが少数いれば、ほとんど経費がかからない。

(3) 残土捨場の跡地利用

跡地完成後は、できる限り管理費のかからないものを計画してほしい。そのひとつとして、町内に多く生息するオオムラサキやクワガタなどの昆虫が集まり、繁殖でき

るような森づくりをしたい。

地元産のエノキ・クヌギ・コナラ・カエデを中心に秋に紅葉する種類の木や冬に落葉しない種類を混ぜた混合林をつくり、散策路を整備する。

(4) ダム湖の景観利用

国道257号と県道瀬戸設楽線がダム湖を横断する橋を利用する。橋の歩道は自転車がすれ違える余裕がほしく、できるだけ広くしたい。橋の両岸は駐車場があり、ダム湖が展望できる広い場所をつくりたい。来訪者が二度、三度来たくなるような場所づくりを考えてゆく。

◇提案

21世紀にむけて設楽町から地球温暖化防止、地球エコを発信できるような施設

万博会場にあったメイとサツキの家のようなフルサトの記憶をよびさます家を建てる。できれば、水没家屋を移転させる。いつでも水没した人達がきやすく帰れる泊まれるふるさとの家にする。又、交流施設とはちがった下流の人々のいこいの家とする。見せるだけではない、体験もできる全国にない民族歴史博物館をダム湖周辺に建設し下流そのほかの地域の人々を呼びこむ、桜、もみじ等の公園、学習のできる自然の森。周辺に4ヶ所も公園が必要か。空地があるから利用するでは知恵がない。維持費の少ないものを考える。剪定の必要なもの、実を管理しなければならない植栽は無理です。

◇提案

今後の設楽町には、ダム湖を利用した観光開発が必要であると思われます。ダム湖周辺の国道257号沿いに、水と関係のある観光生産施設（地域内既存企業）を作る。例えば愛知淡水、関谷醸造、JAこんにやく、山家こんにやく、津具トマトジュース、などの生産工場を一ヶ所に集めて見学のできる直販工場群を作る。その周辺に水辺を散策できるような公園を配置し、観光拠点とする。できれば豊川市にあるギョギョランドを設楽町に移設し、ネコギギ等淡水水族館を併設すれば集客効果はさらに上がるものと考えられる。商工会としても箱物には疑問点もあるが、生産性のある施設で、さらには民間の活力を注入することにより、採算面でもクリアーできるのではないか。また、6月12日の会議の資料の中で、年間利用者数上位のダムでは、ほとんどの施設にアミューズメント施設等が併設されている。ただの自然公園だけでは、大きな効果と期待はできないのではないかと思われます。

◇ 提案

注：ダム対策室が記載を省略した箇所があることをご承知おき下さい。

○森林セラピーのご案内

私たち設楽町は、ダム対策室よりご案内ありましたように全国のだ真ん中に位置し、第2東名が開通すると30分程度で、設楽町に計画されている「設楽ダム」を期に“森林セラピー”を検討したら如何かと思えます。

私たち設楽町は、自然の中で生活しています。

私たち設楽町の自然は、緑に囲まれた森林、香り豊かな空気、せせらぎ流れる水の音。設楽町の真ん中に計画され実施されようとしている「設楽ダム」どうぞ設楽町の再生計画の一旦として、全国より多くの方々が訪れ設楽町が潤われるような“癒しの空間”を提供されることをお願い申し上げてご案内とさせていただきます。

なお、実際の立地計画は、基本公園およびダム湖周辺へ設楽町が計画している公園施設へ“森林セラピー”を併用と考えております。

また、今回はご案内で資金的な面、経費的な面などについては未検討です。

◇ 提案

この度のダム湖周辺整備事業は、設楽町の未来を左右するものです。

ダムが完成し、周辺整備事業が稼動し、その事業による成果が生まれだすのには、最低でも今から20年30年の先になるでしょう。今、我々設楽町民自身がその未来の日に照準を合わせた事業にしなければなりません。当然、設楽町の抱えているたくさんの問題解決事業にする必要があります。問題点を挙げて、それを解決していく事業化を提案します。

問題点の1つに、人口減少 過疎化があります。人口の減少は全てにおける諸悪の根源です。これをなんと食い止めなければ、設楽町の発展は望めません。それどころか存続さえ危ぶまれる地方町村のひとつに入ってしまいます。

現在、小学校に通っている子供達が 他地域の大学に行き、そしてその地で職に付く子は多いでしょう。その子が女性或いは次男以上になると、確実に他に住み付いて町の人口は減っていきます。

この子供達が、この地に戻ってくる事はあるのでしょうか。

せいぜいが、長男として生まれた子が、いずれ退職後に実家に戻ってくる事が関の山ではないでしょうか。今 小学校に通っている子供達は、確実に長男以外は居なくなり、長男も帰ってくればいい方ではないでしょうか。そうです、長男以外が戻れる環境がないのです。

この点を問題点とし、これに対する対策をビジョンとして、私はこの事業を提案させていただきます。

第2回目の会議で示された湖畔まわりの公園事業のイラスト案はすばらしいと思いま

す。

その湖畔公園事業に対しての提案です。これは他地域からの人だけではなく設楽町民自身が、何度も来たくなる快適な公園にしてください。もちろん水没された方の辛い思いを何かの形にする事も大切なことの1つに思います。

提案1 その事業は清潔な公園と明るい駐車場 最後に清潔で明るいトイレが必要です。

ところが、こう書けば何処の事業も そのように進めるでしょうが、問題点はその清潔さが都会のレベルのそれであるかどうかです。

現在の設楽町のレベルの、清潔と明るいのは困ります。なぜなら ここへ来る人たちは都会からの人たちです。その人たちが清潔だ 明るくて気持ちが良いと感じてもらえるレベルが必要なのです。 そう感じて、始めて口コミで「あそこは良いよ」となるのです。

事業を進める上で自然を売り物にした公園作りにおいて、自然が豊富な公園があればいいと思うのが普通です。しかし私は永い間のファッション事業を通し、集客について学びました。その研究から「集客」するものの核になるものは70%は来る人の当たり前な快適な環境です。そして30%が、事業主が呼べると思っている物、ここでは自然公園です。

つまり、普通は自然公園を作れば人は来ると思いがちですが、実はそれを取り巻く、快適な駐車場、トイレ、食事のできる、或いはお茶の飲める等々の「真の快適な環境」自身が実は本当に人の集まってくる事業作りのテクニックなのです。

この考え方なくして安易に事業をつくり、だめになり、安値売却が「グリンピア」ではないでしょうか。 私はこれは、いわゆるお役所の方々による犯罪行為だと思います。こんな事は、二度と許してはいけないし、二度と同じようなことはさせないのがわれわれ住民の民意です。設楽町がそんな事をするとしたら許せません。

前回の会議で、横山副町長が言われました土捨て場の7-9ヘクタールに運動場を作るといわれました。これはこれですばらしい計画なのですが、 ひょっとして「すいすいパーク」「奥三河総合センター」がたくさん出来るだけなのではないでしょうか？ この現在の2つの事業が「集客力」を持って成功しているのなら、問題はありません。しかし、お世辞にも沢山の人が利用しているとは思えません。

その上、まだ運動場を作るのですか。明らかに集客力の乏しいその事業の何が町へのプラスになるのでしょうか。どのくらい維持費が必要になるのですか。どのくらいの利用量が見込めますか。それより、誰がそれを利用するのでしょうか。本当に利用するのでしょうか。

私はこの運動場構想には、今の設楽町の企画に対するソフト量では疑問に思います。この際、真剣に客観的に調査をしてみてもうどうでしょうか。

提案2 土捨て場の広い土地への提案です。

人口減少に備え その地に住宅地を作ってはどうか。

住宅地事業は、人口増加の第一歩です。

私は名古屋で生まれ育ち、そして退職をして設楽町に生活の場を求めました。しかしそれは縁故のおかげで土地を以前に求める事が出来たからです。そのおかげが無ければ、土地を購入する事ができずに、この地には引っ越す事は不可能でしたでしょう。設楽町に引っ越したいと思う人たちはもっと住宅に対する売り物があればと思っています。他地域の人で設楽町に住める環境があれば移住を考える人は多いと思います。もちろん設楽町出身の人でも、こう考える人も多いでしょう。

しかし、この設楽町へは住宅地の購入を考えても、実現しにくい状況にあります。

作手村にしても田峯にしても、住宅地を作って住宅が増えて成功しています。

将来、設楽町には30分ほどで通えるところにインターが出来ます。当然その周りお金が集まり、そして企業が出来てくるでしょう。設楽町がそのベットタウン構想にしたらどうか。

住宅環境が整い、人口が増えれば自然に企業の誘致も夢ではなくなります。

そして、商店も50年前の名古屋の商店の有様が、少しは改善する必要はありますが。

私自身、以前に私の会社の一部を設楽町に持ってくることを検討しましたが、住宅事情から断念せざるを得ませんでした。住宅事情、住居環境が問題でした。

24時間の全ての人の周りに対する環境が悪すぎます。

提案3

そして、尚そこに退職後の人たちも帰ってくる事の出来る「熟年用のマンション」があったらどうか。これは介護施設ではなく、熟年の人が入れる環境のあるマンションです。入るときは五体満足でも、十数年後は自信が無くてもマンションの仕組みが救ってくれる「次世代型マンション」です。もちろんこの横に町立病院があればもっと良いでしょう。大きな手術はできなくても、とりあえず見てもらえる病院です。

何年も前から名古屋の藤が丘にある、ある病院が病院の建物の横に賃貸マンションを立て、24時間看護可能にし、また給食施設を備え、介護施設或いは病院に入る以前の熟年層が楽しく生活を安心して送っています。事実私の親もここで快適に一人暮らしをしていました。このマンションは永住型とまでは行けず、かといって介護施設の不自由さは無く、すばらしいビジョンのもとでのマンションスタイルの施設だと思います。私が提案するものは、もっと永住型の進んだマンションです。こんな環境はアメリカ アリゾナに沢山有ると聞きます。そして世界的にもかなり有名になっております。ここをもっと研究してみる価値は充分にあるのではないのでしょうか。多くの熟年層がそんなところを探しています。

私達夫婦もその環境を求め、アリゾナにしなければ移住も視野に入れているほどです。

設楽町は、今住んでいる人のことだけを考えていませんか。これから設楽町に移住する人たちのことも考えてみてはどうでしょうか。

熟年層がきれいな環境の下で楽しく住め、24時間ナース待機の環境も備えた安心できるマンションなのです。もちろん食堂施設があり、食事を作る必要のないことも条件です。

こんなマンションが分譲でも賃貸でもどちらかでもあれば、熟年層が住みたくなるでしょう。思わず住みたくなる仕掛け作りを設楽町でして見ませんか？

他地域へ職を求めて出て行く人が多い設楽町ですが、その人たちが帰ってくる場所はありません。都会の様に宅地販売も無ければ、住宅販売もありません。

これでは人も住む気が起きないでしょうし実際住む事は出来ないでしょう。当然 人口は増える要素は何もありません。人口が減少する町村はゴーストタウン化するのです。住宅地に他の地域から人が移り住み、退職後に設楽町で育った人たちが帰ってくる。退職した親はマンションに、子供達家族は住宅地に、、、すばらしいと思いませんか。そんな環境から、この街の将来にも始めて「芽」が出てくると思います。

提案4

それと、それらの土地の横には、下流地域の人々の為の家庭菜園を教えて実践できて田畑の借用できる環境です。

私達の住むこの設楽町には、美しい自然とすばらしい農業に対する姿勢があります。持っていない文化で、他の地域と勝負は出来ません。この地には農業に関する文化がいっぱいあります。教えてくれる人も大勢居るでしょう。それを求めて下流地域から人は集まります。

休みの日に設楽町の借りている田畑で農業を体験する事はすばらしい事です。

しかも、それらの住宅、マンション、田畑が「湖」の湖畔にあることはすばらしい。

この湖には、これらがあり そして湖畔を散策し 明るく清潔な環境があれば、誰もが心引かれるところとなるでしょう。

住まいの周辺に、美しい湖のある環境は 誰もがあこがれるすばらしい地域になりえます。

そんな環境を、今回の整備事業作りの提案とさせていただきます。

最後に1つお願いがあります。

皆さんが「ダム湖」という表現をされますが、やめてくれませんか。

ダムによって出来た、美しい湖です。是非 「湖」と呼んでほしい。

ダム湖の表現は、確かにそうでしょうが 出来てしまえば、、、或いは近所に住む人たちには美しい「湖」です。 その湖畔に住まうのです。

この湖畔が美しく、すばらしく 人間の心を豊かする土地になる事を望みます。

◇ 提案

したらエコビレッジ構想

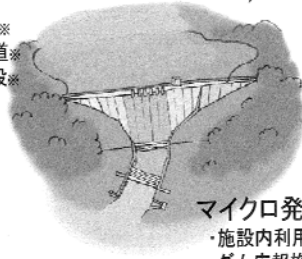
コンセプト

- ・環境に優しいまち設案町
- ・公共施設クリーンエネルギー使用率100%
- ・自然を生かしたまちづくり
- ・エコな事業所に対する優遇政策



里山利用※

- ・ダム湖周辺事業
- ・森林セラピー※
- ・散策型商業施設
- ・スポーツ施設との複合型※
- ・散策道＝森林整備作業道※
- ・ダム湖周遊道の起点施設※



マイクロ発電
・施設内利用発電
・ダム広報施設用



イメージ図

◇ 提案

- ダムとトンネルや橋は同じに作っていくのか。また（5市1町）で工事費を分けるとしても、まだはっきりしたことは分かりませんが、大変かと思います。
- また、交流会を始め、話や意見の交換をもっと多くして同じテーブルについて話し合うことも良いと思います。
- また、6月14日に起きた地震についても、トンネルや橋のことについても心配です。
- 公園やスポーツする場所を作るにしても、5年、10年先を見込んで作ってもその時代に合うものを作った方が良いと思うし、もっと、中学生、高校生の意見を聴いても良いと思います。

◇ 提案

○自然を生かした町づくり

基本的には、箱もの施設は必要最小限におさえ、森林の整備に力を入れて、自然を守り、豊かな水を保ち、下流の人たちにきれいな水を供給することが大切だと思います。

① ダムの水が枯渇しないように保水力のある森林を育てるためには・・・

強い森林を作るには、30から50種類の木を植えることが必要だそうです。

（杉や檜だけの山ではよくない）

町有林、県有林とダム湖周辺の私有林との交換を進めていく。

② 下流にきれいな水を供給するには・・・

気になること・・・とてもカルキ臭い水道水

毎日体に入る水は大切です。今年3月にあった話ですが、ある日大雨が降り、ある町の浄化施設で水があふれ、一部の地域の家庭で浄化されていない水が水道に流れたそうです。その水を飲もうとした人はとても臭くて飲めなかったそうです。それだけ汚い水をどれだけのカルキを使って消毒しているのかと思ったら、ぞっとしたそうです。近所の人たちとその話をしたところ、飲み水、料理に使う水は水道水を使わず、水を買うという人がたくさんいることを知ってびっくりしたそうです。その友人もしばらく水を買って使ってみたところ、1週間でかなりの量の水を使うのでお金がかかって経済的に大変で続かなかったそうです。毎日飲む水は体にすごい影響があると思います。ダムの水をできるだけきれいな状態で下流の人たちに使ってもらえるかということも、町で考えていけるといいなと思います。

③ 自然を保持して、森林浴を楽しめる環境作り

新しい道路から見える景色とダム周辺、道路の周辺（名倉の川沿いに植えられたさくらは、町で負担しているのですか？とても評判がいいです。）に、さくら（八橋の古いさくらを残し、その周辺に何千本のさくらを植える。）、しだれ桃（川向のしだれ桃をもっと増やす。）、もみじ、その他花が咲く木、紅葉樹など1年を通して季節を感じられる木を何百本と植える。

多くの人が森林浴に足を向けてもらえるような環境を作る。

- ④ 始めから施設を作ってアピールするよりも、注目されるような自然環境の保持をしていけば、あのダム湖周辺でこんなことをしたいな、自然の中でこんなことをしたいなと思ってくれる人たちが全国、世界から来てくれるのではないかと思います。森林を作るには長い年月がかかるため、早く取りかかった方が良いでしょう。

◇ 提案

注：ダム対策室が記載を省略した箇所があることをご承知おき下さい。

○ 3つのプランを提案させていただきます。

1：湖面に太陽電池パネルを設置し発電する。本当はダムそのものに発電装置を設置し、発電し、化石燃料の使用を抑えたいところである。

テーマ：「環境を守るダム」ダムといえば、環境破壊というイメージがありますが、ダム湖の利用の仕方によっては温暖化対策の有効な手段となりうるといふことの全国の手本としたい。

目的：すべての町民へダムの恩恵を行き渡らせたい。
年間1万トンのCO₂削減し、その排出権を将来、町の財政に役立てたい。

計画の内容：湖面に800m×150mの太陽電池パネルを設置する。

(パネル約75000枚)

すぐ近くの田口変電所まで、電線で接続する。(距離1km)

準備方法：国交省始めCO₂削減に協力的な機関へ協力を求める。
IHI、シャープなどフロート技術・太陽発電技術を得意とする企業に働きかける。
この分野に積極的な大学・研究機関の協力を求める。

各種試算：予算 初期費用 60億円から100億円、維持費(年間)3000万円
発電料(1ヶ月) 1507500Kwh(計算略)
削減CO₂(1ヶ月) 934650kg(計算略)
稼ぎ出す月間電気料金(1ヶ月) 3000万円

その他効果：現在、国内排出量取引制度検討会でCO₂の排出権取引に関する協議が進められております。その席で、排出権のオークションについても、話し合われており、将来的には、年間1万トンという排出権は、高値で落札される可能性もあります。町は第三セクターの設立も含め検討し、その収益を、町債の返済、住民福祉もしくは新たな町の活性化などに利用する。
日本一の例として宣伝効果が見込める。

問題点：巨額の予算を要する。
台風対策、渇水時対策を各方面と協議する必要がある。
いろいろな法的諸問題を含んでいる可能性がある。

2：土捨て場の水没者宅地利用（希望者がまとまれば）

案件名：移転先提案

目的：比較的利便性の良い町の中心に近いところで移転地を提示することで、少しでも町外に引っ越してしまう人を減らしたい。

内容：土捨て場予定地の平地面積が10ヘクタール程度となる場合、受益自治体との交流施設だけでなく、水没地域皆さんの代替え宅地として提案したい。しかし、希望者がまとまらなければ意味がありません。

3：関係神社への配慮と観光利用。

工事の影響を受ける神社への配慮（工事安全祈願の意味もあります）と古くからあるこの地域の神社を観光資源として利用したい。

案件名：地元文化への配慮

目的：神社へ配慮することにより地元人心への配慮を行うとともに、神社などを観光資源として活用したい。

内容：ダム建設で大きく影響を受ける神社には特段配慮をいただきたいと考えます。

◇ 提案

設楽ダム建設により大きく水没地区は、3ヶ所かと思えます。そこで、この水没三区の住民の方々は、移転地に移住することになり自分の古郷は無くなってしまいます。

思い出の場づくりをしてあげながら残る住民も有効にこの三地区の施設を活用していただけたらと考え次の事を考えました。

1. 大名倉地区

水没することなく残った土地に、水没者の方々の中でなるべく大きな古民家を再建し、まず移転者の集いの場（思い出の場）を作り、ふだんはこの施設は空いていますので下流の方々に民宿風に使用して頂き、少しでも維持管理が出るように。又、川を利用したマス、アマゴ等釣場作り（これは地元漁協と話し合い）をして、少なくとも2、3人が働けるようにすることが出来ればと思えます。

2. 川向地区

大名倉地区と同様に古民家の再建。

この地区におきましては、皆様方誰もが知っておられると思いますが、春の時期になりますとしだれ桃が見事に咲き、多くの方が車で訪れます。春だけではなく秋も紅葉等で少しでも多くの方に来ていただける場作り。

3. 八橋地区

水没3地区の中では、残る平坦な土地が一番大きいと思えますが、この地区におきましても大名倉同様、ニジマス、アマゴ釣等、又、昔よりおもしろい地形の場

所でありまして、2つの川が合流し、その川の300m程上流で2つの川を結ぶ事業を先人の方々が実施しまして、今でも切り開いた所が残っておりますのでボート、夏には子供達の水遊、キャンプ施設も十分出来るスペースの所かと思いますが、町の利益に継がらなければと思います。

最後に、これら三地区とは全く異なる場所又、少し考え方も異なると思いますが、それは国道257号と県道設楽根羽線の間、添沢温泉の上から奴田地区にかけて道の駅的な物とイベント会場としても又、四季折々の散策道（体力回復道）が出来ればと思っています。

名倉地区からも津具地区からも近いところでもありますので、地元の産物、直売、五平餅、アメ茶漬、アユ雑炊、とろろ汁などでもてなしが出来たらと思います。

イベント会場におきましては、地元は当然のこと、下流市町にも年に3～4回位の割合で様々な催しをお願いすることにより下流との交流の場として、この施設が長く黒字で営業できれば、多くの方の働く場作りにもつながるかと思っています。

◇ 提案

国道153号（津具一名倉一稻武一豊田）方面と151号（豊橋一新城一東栄一飯田）の流れのはざまになってしまうので、限界集落とならないように町全体も考えてダム湖周辺の整備をする。

- ① 主要な国道、県道の他にダム湖周遊の道路を整備する。

ダム湖周辺に数カ所の観光スポットをつくる。

例えば、シダレモモの里、オシドリ、サクラ並木、酒の郷

コンニャク村とか道の駅(なぐら)、津具グリーンパーク等あわせて観光の町とする。

(町の生き残り作戦として)

- ② レジャー施設（温泉）、ボート、カヌー、魚釣、サイクリング、ウォーキング、ジョギング等ができ、汗を流した後温泉に入浴できるようにする。

添沢温泉、塩津温泉の整備と活用

- ③ 都市からの流入をはかる。（年齢を問わず、Iターン、Uターンを）

空家（田口地内など）の入居者を募る。

別荘をつくるのではなく、貸家の提供をうけて、休耕田や畑を貸し出す。貸農園福祉村として医療の充実を図る。（若者と年寄りの共存）

◇ 提案

○里山の自然林開発を！

- ① 添沢地区添沢作業道が山の頂上付近を東から西の方向へ（設楽大橋）1500m入って居る南側の山林面積約8ha－10ha。

- ② 散策路開設、県道設楽根羽線トンネル入口付近を起点とし西の方向へ幅員3m、延長

1500m、257号線へ途中何らかの形で接続。

- ④ 山1区画1haずつを下流域各市町村に委託、残りは地元で管理、春から秋まで楽しめる里山自然林を作る。
- ⑤ 温泉施設と天満宮がエリア内に入ると色々と影響が出る。
散策路周辺湿地帯には、山野草などが自由に採集出来る。

自然との共生が今後重要なキーワードとなるように望みます。
「美林萬世之不滅」の言葉のようにお願いします。

◇ 提案

■ ダム湖周辺すべてを山菜公園へ

多くの委員が提案されているように、湖周辺の人口林をこの土地本来の自然林(里山)へ戻すことは大変重要だと考えます。ダム及び接続道路周辺の支障立木だけでなく、地権者の理解が得られれば大規模な自然林に戻すことができるのではないのでしょうか。

春になりますと道端で山菜を採りに来る都市部の人々を最近よく目にします。都市部では公園で山菜を採ることは禁じられていますし、田舎だって本来他人の山には入れません。町民、都市部の人、みんなが山菜採りや里山観察が楽しめる大規模な山林公園(町民共有林)はどうでしょうか。

・湖周辺の山地を設楽町財産区(あるいは別のNPO法人などの管理団体)としての管理にし、自然林を主体とした山林公園とすること。

・山林公園としてより生かすには交通手段を規制することが必要です。例えば入山できるところを1、2箇所限定し、そこから簡易な(維持負担の少ない)モノレールみたい物で移動する、あるいは対岸に小さな遊覧船で移動するなど、マイカーで簡単に入山できないようにしなければいけません。安全のためにも何人入山しているかは把握しなければなりませんし、なにより入山料(里山育成費)を支払っていただき、その収益で公園の維持管理、自然林を植樹していく活動費として活用していきます。

・アクセスとしてのモノレールは、自然へのダメージも少なく、障害を持つ方が気楽に山林周遊を楽しめ、お年を召した方でも山菜採りを楽しめるのではないかと思います。また、観光地としてのアトラクションの目玉にもなりえます。往年の設楽線森林軌道のように木材運搬にも利用できるようなものは難しいかも知れませんが、みかん畑のモノレールのようなイメージで

・設楽町民には開放し、まだまだ元気なおじいさん、おばあさんたちには経験を生かしながら土日は山菜ガイドとして、平日は採ってきた山菜を市場に、あるいは湖畔の物産センターに出荷していただく、大規模な山林公園は天然山菜の一大ブランド、一大産地としての可能性があると考えています。

・予算ほか処々の事情で当初から大規模なものは難しい場合でも、都市部の緑や自然に関心の高い人々から、寄付を募り、植樹に参加してもらえる人を集め、基金をつくり徐々に規模を大きくしていく方法もあります。

・人口林がすべて悪いわけではなく、十分に手が入れた人工林はとても美しいと思います。自然林と人口林が調和するような山になるのが一番理想だと考えています。

■ 湖底利用施設について

最近あまり聞く機会がないですが、昔は終末思想から核シェルターの必要性が云々というニュースを耳にしました。湖底が利用できるかどうかはわかりませんが、もし利用できるとしたらどんな利用方法があるか考えてみました。

・政府の核シェルターなんて空想のものでしょうか、次世代次世紀に残したい美術、芸術作品を安全に保管できる文化財シェルターを作りたいという機運が起これば、湖底の美術館、博物館なら十分な観光資源になると思います。

・今後宇宙開発、海底開発は進んでいくと思います。実験施設の重要性が高まっていく中で、湖底の実験施設は有効ではないでしょうか？施設、設備を建造してから満水になれば、費用としては海底に作るよりかなり安価にできます。

■ 湖面の利用について

湖面の利用に関して、一定の企業、会社に利益がでるような使用は好ましくないと伺っています。どの程度かはわかりませんが、利用方法としていくつか考えてみました。

・湖面での筏による水耕栽培（空芯菜）の実験を岐阜で行っているのを見ました。空芯菜に限らず、低い水温で栽培可能な作物、栽培方法はこれからも探してみたいです。

・水上モータースポーツの使用について。湖で競艇というわけにはいかないでしょうが、マリッジットによるレースは日本でも開催されています。まだ観客動員数としては少ないですけど今後、増加していく可能性があります。海水に比べて淡水は機材の整備も簡略できますし、アクセスがよければ十分なアピールポイントになると思います。ただし環境、騒音にたいする配慮が必要ですが。

■ 農地としての利用について

横山副町長が提案された農業体験型宿泊施設は非常にいいと思います。湖周辺に限定するのはもったいないので、地域活性化のためにも津具、名倉方面のやむなく休耕している田畑を、是非有効に活用していただきたいと思います。

・定年後、農業を主体とした田舎暮らしを希望される方が増えていると聞きます。定年前、定年後かかわらずこの設楽町に移住する人が増えるのは大変いいことです。移住希望者を支援する農業研修施設が残地利用で整備できないでしょうか？研修には先生となる元気のいい先輩もたくさんいますし、研修終了後も地元農家の農業指導付で、住

居と耕作地の斡旋ができれば、必ず人気になると思います。

また住民の理解が必要ですが、例えば刑の服役を終えた人が、新しく職業訓練し社会復帰をするのに農業は非常にいいと思います。適切な指導と回りの理解があれば過疎に悩むこの地域にとって、今後の農業を支えてくれる働き手となってくれるのではないのでしょうか。

・年契約または複数年契約の市民農園の運営について。都市部で家庭菜園を楽しみたい人が増えています。でもマンションあるいは戸建であっても、自分の畑を持ち管理維持していくのは難しいです。そういう人々向けの市民農園はどうでしょうか？一区画50坪ほどで十分野菜が栽培できます、農業用水と小さな納戸の用意ぐらいで初期投資もあまりかかりません。契約者は週末には畑の世話をやってきます、何度か設楽町に来るうちに、本格的にここで農業をしようと思う方もきっとでてきます。

◇ 提案

■ 宮ヶ瀬ダムでは、地元の方が毎月イベントを開催して集客に努めている。

- ・年中イベントが組みやすい施設を作る。
- ・春の小川を作る。湿地帯を作る。
- ・子供の頃にはあった植物を植える。
- ・蛍の発生する小川作る。
- ・水車を再現する。
- ・戦中、戦後の農業を再現する。
- ・無農薬野菜の山のレストランを作る。
- ・釣って、すくって食べられる魚の養殖池を作る。
- ・炭焼きがまを作る。
- ・ダムに関係する施設はすべて太陽熱発電を導入する。
- ・湖の周囲にミニ風車を建て風力発電をする。
- ・川向と田口間の利用可能な公有地、または民有地を購入して直売所、食堂、喫茶店、加工場を作る。
- ・施設は1、2箇所でよい。点在する施設では管理費がかかるだけで効果がない。
- ・八橋の空いた土地に昭和の村（昭和30年頃まで）を再現する。

◇ 提案

・一般県道と市清崎線は、12年間で全線開通する。この沿線には塩津温泉がある。水特法の対象地域になると考えている。この和市清崎線整備の当初最大の目的は、塩津温泉郷の開発であった。今は生活道として欠かせない道だが、完成すれば町外からお客を呼び込もうという一環として、この塩津温泉郷に、町なり国なり県が助成なりアドバイス、公的な他市町村に見られるような足湯、できれば20人、30人ぐらいの宿泊可能な施設整備

を考えに入れていただき、こうした問題をもう一度見直していただきたい、改めて目を向けていただきたい。この地域に限って私たちが申し上げることではないが、せつかくの設楽町の大きな資産である。塩津温泉という名の通った温泉であるので何とかこの折に昔のような、湯治客を呼べる施設にできたらと心から思っている。

◇ 提案

・設楽ダムの水源地であるということ、水ということであれば、5市1町、愛知県内の各市町が設楽ダムの湖畔近くにその市町の山を設定し、そこへ市の木を植えてそれを管理しに来る。その市の人達が来て管理を行う。ということも加えていけば山へ行った後、その様なところへ集約して来るというようにすればピーター、自分が植えた木、市民が植えた山、市の山に見に来れるのではないかという感じを受ける。できれば各市の山を設定してあげるという方法がとれば一層そういうところが活性化してくるのではないかと思う。人をどう寄せるかということだと思う。設楽は知らないが稲武は分かる。稲武には名古屋市野外教育センターがあり名古屋市民はほぼ全員来ている。稲武は知っているが設楽は知らない。野外教育センターが心の中に残っている。設楽町にも何か各市のそういうものがないと来てくれないのではないか。ただ見学といってもなかなかそうはいかない。だから市がある程度指導的な立場に立って、そういう物を作っただけならば、行きましょうという音頭をかければ嫌々ながらも、自分がそこで体験すればもう1回行ってみようということになってくるのではないか。例えば自分で植えた木なら、孫を連れて、その木はおじいさんがその頃植えた木だと見に来るかも知れない。そういうことを考えると、愛知県で最後の大きなプロジェクトだと言われている設楽ダムで、愛知県民の水源地の森づくりではないが水源づくりというような事を訴えていく。町や国や県がお願いして、各市がここへそういう教育、自然教育を求める場所的なスペースを我々が提供できればいいのではないかと私は思う。それに付随して商業施設、教育施設ができればいいと思う。

◇ 提案

①清崎地内の施設に対する提案

- ・ トイレ、農林水産物販売所などを一つの施設にまとめず、分散型の商業施設とする。範囲は川を500mほど遡ったところに歩行者用の橋を架け、1周約1km程度の周回できる散策路を整備しその中にトイレや販売施設、足湯などを点在させる。民族芸能文化施設を取り囲む様に動線を設置することで、この施設への集客を誘導する。
- ・ トイレ、点在する各販売所に水没する古民家を利用する。また通路には伊那街道の石畳を利用し、道沿いには石仏などを配置し、道の駅、販売施設、民俗芸能施設すべてを同じイメージで作り上げていき、施設全体のコンセプトの一体化を図る。
- ・ 歩行者用の橋（前述）の袂にレンタル自転車を用意し、ダムサイトまでの4kmを徒歩だけでなく、自転車でも移動できる様にして、ダム展望施設までの移動が容易に出来る

ようにする。

②したらエコビレッジ構想について

- ・ 現在、「エネルギーの地産地消」という考え方がありスマートグリッドとかマイクログリッドと呼ばれ、アメリカではオバマ大統領のグリーンニューディール政策の一つとなっている。日本国内でも京都府京丹後市や青森県八戸市の一部地域でスマートグリッドの地域限定版ともいえるマイクログリッドの実証実験が行われている。これをしたらエコビレッジ構想の目玉として、モデル地域に指定してもらい導入を行う。これにより地域のイメージアップと、各地からの視察により地域経済の活性化を図る。
- ・ 上記の取り組みについてはNEDOなどの予算も使う。

③大名倉、八橋の公園と湖面利用について

- ・ 立ち退きを行う水没予定地の住民にとって水が浸からない土地が出来てしまい、そこが荒れた状態になってしまう事への感情的な配慮も大切だが、あまりに過大な公園を作ることで将来の維持管理費の負担が大きくなってしまう事も大きな問題であるため、緑化と小さな駐車場、簡易的なトイレ、水上バイク、カヌーなどを乗り入れるためのスロープなどの設置に留め、あまり大げさなものは作らないことを提案する。
- ・ 水面のレジャー利用については、最近増加している水上の交通事故などの防ぐため、湖面をブイやロープで仕切り、水上バイクは大名倉側から乗り入れた湖面、カヌーや釣り目的の船など動力を持たない船は八橋側しか利用できない様にするなどの棲み分けが必要だと思われる。
- ・ 心ない釣り客の外来魚（ブラックバス、ブルーギル）などの放流を防止するための条例（および罰則）制定と、その対応策（監視カメラなど）を検討しておく。
- ・

④ダム湖周辺整備施設利用検討委員会（仮称）の提案

- ・ ハード面の整備だけでなく、ソフト面の整備などを目的として新たに委員の公募を行い、ダム湖周辺施設の運営が安定するまで継続的に利用方法などの検討を行う。これにより民間の目線で施設利用を考えることが出来る。
- ・ 委員のイメージ
商工業を営む者、農業関係者、林業関係者、水産物生産者、有識者、行政関係者
- ・ 委員については報酬は無し、飲食などが伴う場合は本人が実費負担、視察や勉強会は町の予算から捻出を行う（ただしその場合の参加は町民にオープン）、基本的に会合はオープンで傍聴は自由、議事録は町のHPにて公開
- ・ 議題としては、①施設の活用方法について、②施設でのサービスについて、③施設のオペレーションについて、④施設スタッフのマネジメントについて、⑤施設でのイベント開催について、⑥施設の維持管理について、⑦施設に関するコスト削減、効率化といったソフト面について話し合い、町に提言していく。